

大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

秋 季 号 [No. 49]

2021年 10月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com

中央小学校での常磐津公演の様子



「大津ゆかりの芸能子どもたち」

今年、大津の子ども達が芸能のプロと出会い、学び、発表する場を大津につくるプロジェクトをスタートさせました。

その名も「大津芸能倶楽部プロジェクト」です。大津でのこの企画をどうして立ち上げたのか・・・。

私は一八歳まで大津で暮し、吉本新喜劇や漫才などいわゆる「関西の笑い」を浴びて育ちました。その時の大津の印象は「静かで暮らしやすい街だけど、京都や大阪に比べると地味な街だなあ」というものでした。

転機は、早稲田大学に進学し落語研究会で活動したことです。通称・早大落研は、自ら落語を発表するだけでなく、落語を鑑賞したり、プロの落語会を企画したりする団体でした。そのため、毎週のように寄席や劇場へ行き、部室では昭和の名人の音源や映像を繰り返し観ていました。

「同世代に落語の面白さを伝えるにはどうすればいいか？」そんな事を考えながら、企画を練る日々でした。歌舞伎や常磐津、コントや現代劇など、落語に限らず、いろんな舞台を観て考え続けました。そんな中でふと、いろんな芸能の歴史やその物語の中に「大津」がよく登場することに気づきました。

古典芸能の楽しみを子どもたちに

芸能を楽しむことが「大津」の魅力を発見するきっかけとなる。そんな機会を大津の子どもたちに提供するため、文化庁にプロジェクト申請を行いこの取組を発足させることができました。

五月には市内の小中学校で公演を、夏休みには「子どもたちがプロから稽古を受け発表する」夏の芸能発表会を行いました。

詳しくは「大津芸能倶楽部プロジェクト」と検索してみてください。そして、この秋十月二三日(土)から大津百町館で「秋の芸能文化祭2021」を行います。この『瓦版』四ページに案内掲載されています。

大津芸能倶楽部プロジェクト 代表 寺田悠太

前号で掲載した「走井」を再度見てください



夏季号 No. 4 8号で取り上げました『東海道名所図会』(1797)の表紙部分の図が上図の『走井』でした。

その『東海道名所図会』の紹介の中でも書きましたが『走井』は江戸以前の遙か昔から有名だったようで、多くの歴史上に登場する文人・歌人がこの走井の事を記していました。今回の49号では同じ走井を描いた有名画人や明治時代に撮られたと思われる写真も一堂に掲載して見ました。



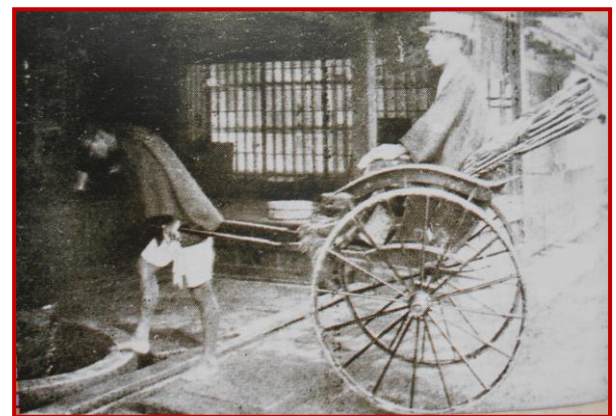
上はよく見られる歌川広重が描いた東海道五十三次の大津の図です。牛車が米俵を積んで通る情景と店先で何やら売っており、巡礼姿の女性が居て魚桶の水を入替えている処まで名所図会と同じです。天保五年頃(1834)



左下の絵は葛飾北斎が描いた走井です。この図は湧き出る井戸部分を中心にしていますが、魚桶の水を入替えている図は同じですし、やはり店先で餅箱に入った様なものが並んでいます。時代は広重の絵とほぼ同じ頃です。



上の写真は明治中頃です。女の子が店先に立ちオジサンがおそらく走井の水を飲んでおり、奥に夫人が何人か居られやはり何か箱の物を売っている様子です。



これも上の写真と同じ明治頃のものですが、明治の末となっています。人力車の車夫が柄杓で井戸の水で喉を潤している様子ですが井戸周りの囲いが低くなっており名所図会や広重、北斎の絵とは少し違います。

この走井の場所では明和元年(1764)に井口市郎衛門が“走井餅”の製造販売を創めたそうです。昔は茶店の庭とし目薬を売り、篠原薬師堂や小野小町百歳像が納められたお堂あったようです。

東海道を行き交う人々も多くまさに描かれた通りの賑やかなところでした。しかし明治十二年(1879)鉄道が引かれ大正元年(1912)には京津線開通する様になり、人家は徐々に途絶え行き交う人々は激減し、走井餅は四代目の明治末頃に京都八幡の岩清水八幡宮付近に店舗移転(京阪八幡駅前の走井餅)したそうです。走井の庭は電車と道路の拡張で放置され随分と荒れていたそうです。

そこを大正年代に画家の橋本関雪が購入して現在の月心寺となっています。

文中の絵図、絵は月心寺の案内文より写しました。また古写真は写真集・大津「ふるさとの思い出」(昭和55年)より。

ミャンマーの現状を知る講演会開かれる

8月1日(日) 大津百町館で

軍事クーデターから6ヶ月

8月1日、大津百町館で、「軍事クーデターから半年、ミャンマーの今」講演会を行いました。ミャンマーでは、1962年の軍事クーデター以降軍事政権となり、2011年に民主的統治に移行するまでの約50年間抑圧的な軍事政権が続きました。スー・チーさんが軟禁されていたことは記憶されているでしょう。

2015年の選挙でスー・チーさん率いる国民民主連盟(NLD)が勝利し、民主化されました。しかし、国軍は連邦議会の1/4の議席を確保され、権威ある省庁を支配する権限を憲法で保障されていました。これらの国軍の権限(利権)が縮小されつつある中で、国軍は自分たちの利権を守るためと考えられますが、2月1日クーデターにより政権を奪取しました。反対する市民には銃により弾圧を加えています。銃を持たない市民が、デモも禁止され、言論弾圧される中で、どうすればいいのでしょうか。日本人である我々にどのような支援が可能なのでしょうか。

まず、現実を知ることが必要だと考え、講演会を企画しました。大津在住で、龍谷大学教授であった大津定美先生と相談し、講演会では関西の女子留学生(仮名)Wild Flowerさんと大津在住のフォトジャーナリスト宇田有三氏を招きました。大津先生は、英国に留学の際、宿舎がスー・チーさんと同じで、友人関係です。講演をお願いした留学生は、氏名を明らかにすると身に危険が及ぶ恐れがあり、仮名としました。彼女は、クーデター以降、故国の友人、市民たちがいかに抵抗してきたか、いかに弾圧が酷いものであるかをスライドを使って説明してくれました。宇田氏は、ミャンマーは多くの(少数)民族から成り立っており、それぞれの習慣、歴史があって、単純ではないことを理解しておかなければならないと話されました。会場の後には抵抗する市民の姿などの写真も展示されました。当日のミャンマー女子留学生は美しい民族衣装をまわって講演会に参加してくれました。

【 竺 文 彦 】



[当日の講演会の様子]

Myanmar Development Support Group

ミャンマー発展支援グループに支援を!

支援募金を訴えておられます。協力ください。

郵貯銀行 支店名 448 ニェイン チャン

Acc No. 14480-09765821

大津を旅した人の記録

大津はたいそう賑やかなまちで大いに賑わっていた頃、旅人はその印象をどのように記していたのか、以前にこの『大津百町瓦版』に掲載した旅の記録を再録して見ました。もう9年前の記事ですので目にされていない方も居られると思います。

□ 今回は、江戸の博物学者で『養生訓』を書いた貝原益軒。この人は旅好きで幾つも旅行記を書いています。『吳妻路之記』(1687年)で、京都から大津についての道中記(地名や幾つかの名所を紹介)を記しています。

○ 京より大津へ三里 ○ 横木石橋を渡ると、此処より小關越えという三井寺の下に出る道あり。○ 追分右の方へは伏見へ出る道なり。○ 火打権現を経て、大谷に走井、今南に有。○ 關寺、昔逢坂の關があった所。此上の山は相坂山なり。○ 關の小川も此辺である。ここで歌を二首、家隆の「立帰りをあふ坂にいしまゆく關の小川の花のしら波」、經家の歌で「紅井に、關の小川は成にけり音羽の山に紅葉ちるらし」音羽の山とは清水寺の山をも云うが、相坂の南の山をも音羽山と云うことは古き説に見え、又比叡山にもあり。關山と云うのも相坂山であり名所也。逢坂に両国寺と云う寺があるが、山城と、近江との境であるから名付られた。大なる石像の薬師あり。行基の開基とか云われている。○ 關の明神、此神は蟬丸なりと云うがいぶかし。○ 此の社の邊に關の清水とて有るとはいえ、ただ古人の説には、關の清水たしかならずと見えたり。○ 八町坂、○ 札辻、左に三井寺へ行道あり。

○ 大津・江州志賀郡草津へ三里半六町、大津町敷九八町あり。人家四千軒余有。松本此邊をすべて打出の濱といふ、湖のはたより比叡山、坂本、八王子、堅田、志賀、唐崎の一つ松、三井寺の上の長等山など見え素晴らしい景色である。是より矢橋へ一里舟渡し有。○ 石場、小川三つあってその内もろこ川といふ小川の前右の方に、木曾義仲の墓あり。俳諧師芭蕉翁の墓も有。今義仲寺といふ小さき寺である。○ 膳所、歌に、陪膳濱(おものはま)とよめるは此邊也。・・膳所城左にあり。もこの城は大津に有て、京極高次の居城なりし。慶長五年関ヶ原の役後にここにうつし、戸田左門一西はじめて居城とした。○ 大津、まつもと、膳所此三か所は町続きたるようであるが別である。膳所と勢多の間粟津原があり。○ 今井四郎兼平の墓がある。○ 鳥居川村に御霊宮あり、大友皇子の霊社である。

益軒はこの後1709年『木曾路之記』でも、同様な文体で草津から勢多、大津、京への道中について書いています。

大津芸能プロジェクトが取り組む

秋の芸能文化祭

トップページで紹介した『大津芸能倶楽部』がこの秋10月～11月に、まちづくり『大津百町館』で「秋の芸能文化祭」として落語と常磐津の公演をおこなわれます。

実施日は10月23日(土)～11月13日(土)の毎週土曜日の午後2:00より午後3:30までです
入場料は大人¥2000 高校生以下¥1000

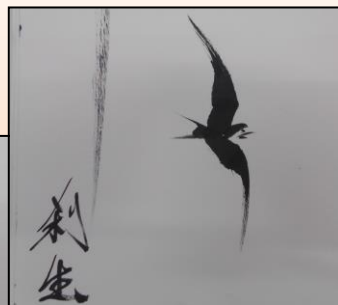
今回の『大津芸能倶楽部』のことは先月NHK 大津放送局の夕6:30からのTV「おうみ発630」でも放映されましたのでご存知の方も居られるかと思えます。常磐津、落語を是非聞きに百町館にお出下さい。



見事な墨絵何方が？

まちづくり「大津百町館」に置いています奉加帳。来館者にご芳名を戴いていますが子ども達の落書きが多いのが現状です。最近こんな見事な墨絵が描かれているのを発見。置いている筆ペンで？ 何も対象物を見ずに描かれているのですから、本当に凄い何方が知りたいです。

ご存知の方が居られま



したら百町館までお知らせ下さい。

編集後記

最近『大津の町家を考える会』の主催事業が無いのでは？と読者の方からご意見を戴きました。昨年「大津の町家とまちを振り返る」冊子を作成しましたが、従来行っていた『萬塾』はしばらくお休みしていますね。この季刊誌『大津百町瓦版』もかろうじて定期発行を続けているのが現状、これからもご意見お待ちしております。[K. A]

気になるお店



カフェ&ブティック

大津市中央2丁目5-18

☎ 077-526-7025

「マルレ」

西武大津店2階にあったブティック「マルレ」が昨年10月に中央2丁目の中町通りに移転しカフェを始められました。麩前商店の隣、以前、たいず屋さんのあった所です。

大正3年建築の町家を元の状態まで戻し、梁や柱、土壁をむき出しにして、良い感じになっています。お料理は、手作り近江牛ハンバーグランチ、炭火焼鰻丼、鱧、会席料理、日替わりの気まぐれランチなどもあって、1500円～2900円です。その他、スイーツとして 自家製のバスケットチーズや手作りのおはぎ等もあります。

珈琲はハンドドリップでお勧めとの事。テイクアウトもやっておられるようです。店内にはピアノも置いてあり、三千枚以上のレコードが置かれています。雰囲気は抜群です。

時々ジャズライブも行われているとの事です。



入口近くには大きなビリヤード台が置いてあり、お好きな方がビリヤードを楽しまれるのでしょう。二階はブティックになっています。休日は水曜日、営業時間は10～21時現在の緊急事態宣言中は水・日休業で営業時間は10～18時になっています。駐車場はございません。